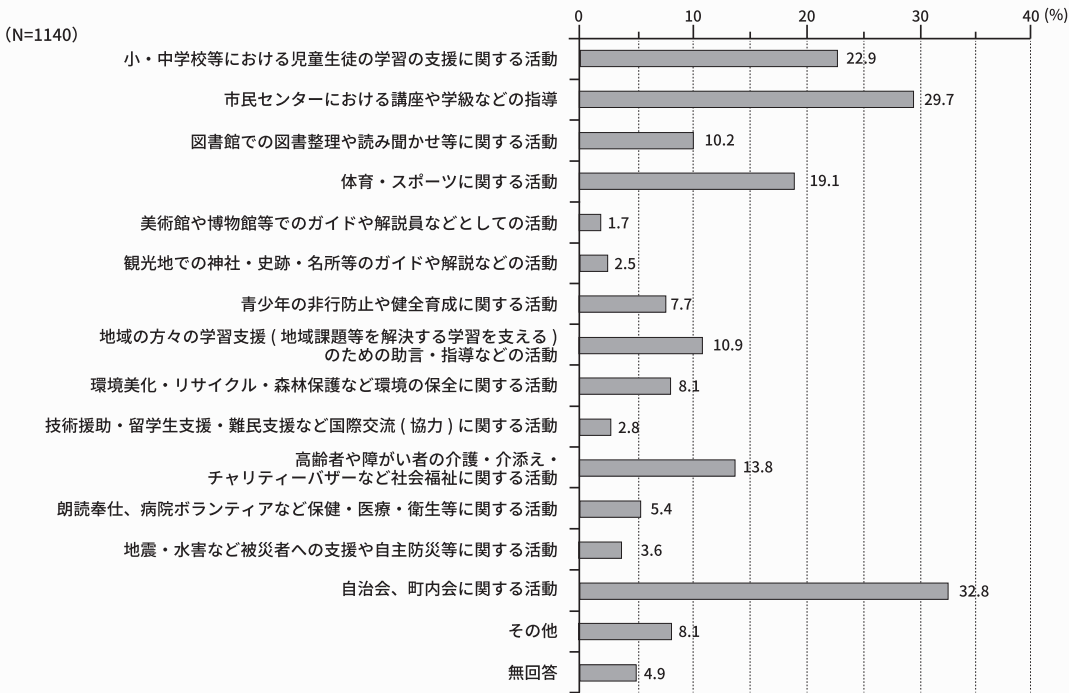


○学習成果を活かしている（活かしたい）分野は「自治会、町内会活動」「市民センターにおける学習活動」「小・中学校等に関する支援活動」

これまでの学習成果を活かしている（活かしたい）分野は、「自治会、町内会に関する活動」が32.8%と最も多く、次いで「市民センターにおける講座や学級などの指導」が29.7%、「小・中学校等における児童生徒の学習の支援に関する活動」が22.9%となっています。（図表13）

【図表13 これまでの学習成果を活かしている（活かしたい）分野】



資料：北九州市

一般市民は「体育・スポーツに関する活動」（28.8%）が最も多くなっています。一方、センター利用者は「自治会、町内会に関する活動」（35.6%）が最も多くなっています。（図表13－1）

【図表13-1 これまでの学習成果を活かしている（活かしたい）分野（一般市民、センター利用者）】

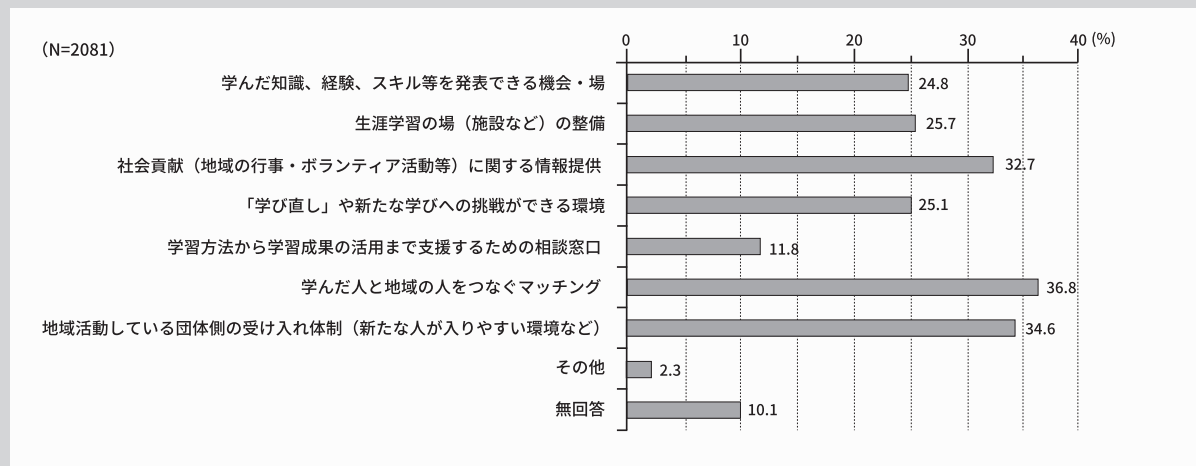
	全体	小・中学校等における児童生徒の学習の支援に関する活動	市民センターにおける講座や学級などの指導	図書館での図書整理や読み聞かせ等に関する活動	体育・スポーツに関する活動	美術館や博物館等でのガイドや解説員などとしての活動	観光地での神社・史跡・名所等のガイドや解説などの活動	青少年の非行防止や健全育成に関する活動	地域の方々の学習支援（地域課題等を解決する学習を支える）のための助言・指導などの活動	環境美化・リサイクル・森林保護など環境の保全に関する活動	技術援助・留学生支援・難民支援など国際交流（協力）に関する活動	高齢者や障がい者の介護・介添え・チャリティーパーザーなど社会福祉に関する活動	朗読奉仕、病院ボランティアなど保健・医療・衛生等に関する活動	地震・水害など被災者への支援や自主防災等に関する活動	自治会、町内会に関する活動	その他	無回答
																	(%)
全体	1,140人	22.9	29.7	10.2	19.1	1.7	2.5	7.7	10.9	8.1	2.8	13.8	5.4	3.6	32.8	8.1	4.9
内訳																	
一般市民	208人	18.3	14.9	6.7	28.8	2.9	3.8	5.8	5.8	9.1	8.7	13.5	6.7	6.3	20.2	7.2	5.3
センター利用者	932人	23.9	33.0	10.9	17.0	1.4	2.1	8.2	12.0	7.8	1.5	13.8	5.0	3.0	35.6	8.3	4.8

資料：北九州市

○学習成果を社会貢献へ活かすために求められていることは、「学んだ人と地域の人をつなぐマッチング」

社会貢献へ活かすために求められることは、「学んだ人と地域の人をつなぐマッチング」が36.8%と最も多く、次いで「地域活動している団体側の受け入れ体制（新たな人が入りやすい環境など）」が34.6%、「社会貢献（地域の行事・ボランティア活動等）に関する情報提供」が32.7%となっています。（図表14）

【図表14 生涯学習を地域活動等に活かすために必要なこと】



資料：北九州市

一般市民では「地域活動している団体側の受け入れ体制（新たな人が入りやすい環境など）」（34.0%）が最も多くなっています。一方、センター利用者では「学んだ人と地域の人をつなぐマッチング」（39.9%）が最も多くなっています。（図表14-1）

【図表14-1 生涯学習を地域活動等に活かすために必要なこと（一般市民、センター利用者）】

		全体	学んだ知識、経験、スキル等を発表できる機会・場	生涯学習の場（施設など）の整備	社会貢献（地域の行事・ボランティア活動等）に関する情報提供	「学び直し」や新たな学びへの挑戦ができる環境	学習方法から学習成果の活用まで支援するための相談窓口	学んだ人と地域の人をつなぐマッチング	地域活動している団体側の受け入れ体制（新たな人が入りやすい環境など）	その他	無回答 (%)
全体		2,081人	24.8	25.7	32.7	25.1	11.8	36.8	34.6	2.3	10.1
内訳	一般市民	741人	21.1	27.7	32.4	27.8	16.2	31.2	34.0	3.1	12.0
	センター利用者	1,340人	26.9	24.6	32.9	23.6	9.3	39.9	34.9	1.9	9.1

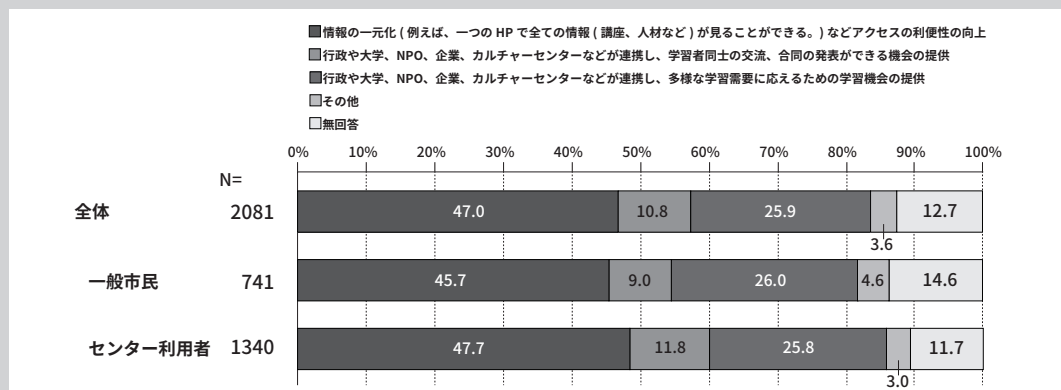
資料：北九州市

(7) 今後の生涯学習に求められること

- 市民の学習機会を充実するため、多くの機関が連携を深め「情報の一元化などアクセスの利便性の向上」が求められている

全体では「情報の一元化（例えば、1つのHPで全ての情報（講座、人材など）が見ることができる。）などアクセスの利便性の向上」が47.0%と最も多く、次いで「行政や大学、NPO、企業、カルチャーセンターなどが連携し、多様な学習需要に応えるための学習機会の提供」が25.9%、「行政や大学、NPO、企業、カルチャーセンターなどが連携し、学習者同士の交流、合同の発表ができる機会の提供」が10.8%となっています。（図表15）

【図表15 学習機会を充実するため多くの機関が連携し求められることについて】



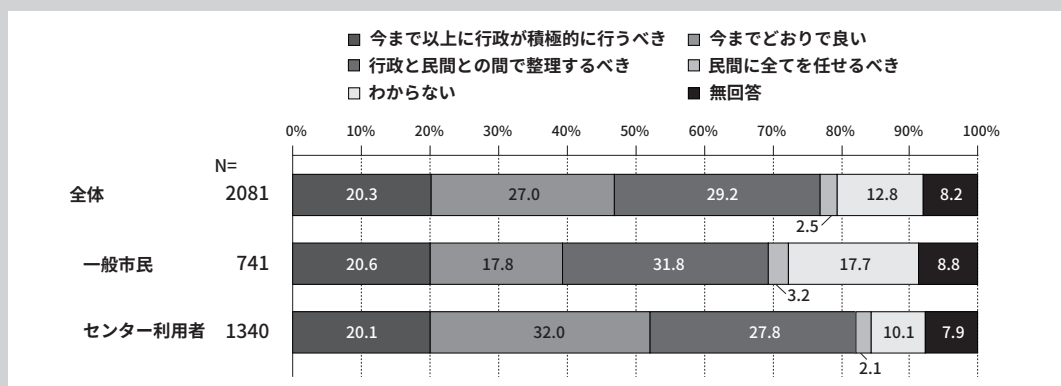
資料：北九州市

- 行政が趣味・文化的な講座を主催することについては、「行政と民間との間で整理すべき」「今までどおりで良い」の割合がともにほぼ同程度（約3割）

行政が趣味・文化的な講座を主催することについて、全体では「行政と民間との間で整理すべき」が29.2%と最も多く、次いで「今までどおりで良い」が27.0%、「今まで以上に行政が積極的に行うべき」が20.3%となっています。

一般市民は、「行政と民間との間で整理すべき」（31.8%）が最も多くなっています。一方、センター利用者は「今までどおりで良い」（32.0%）が最も多くなっています。（図表16）

【図表16 行政が趣味・文化的な講座を主催することについて】

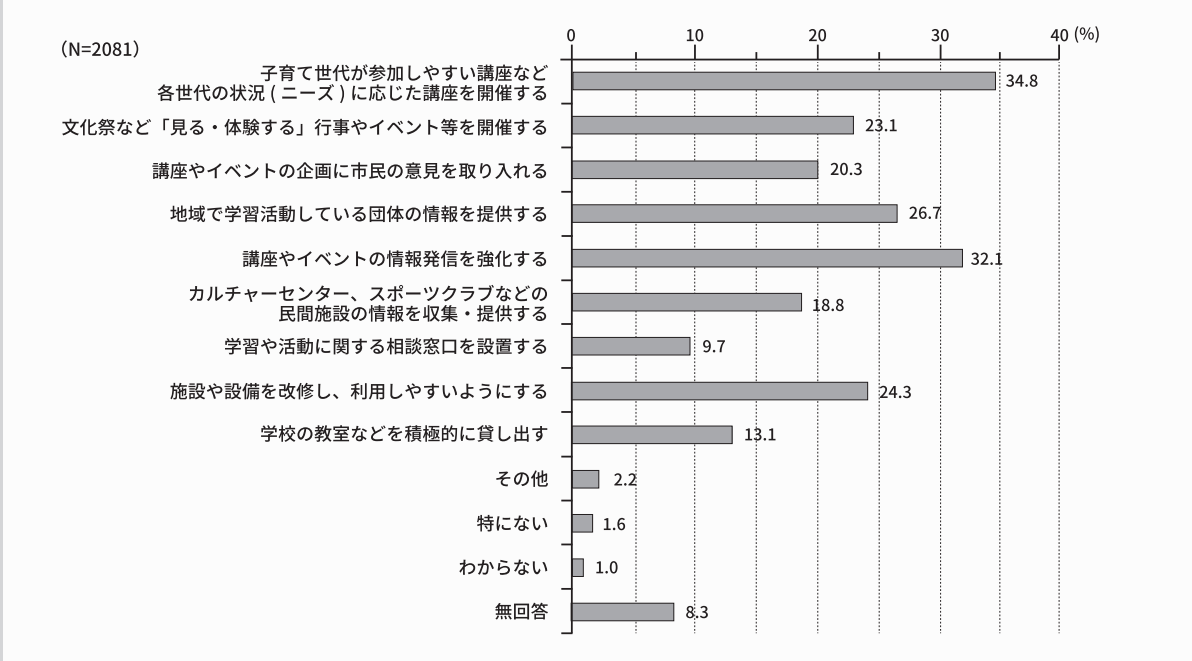


資料：北九州市

○多様な世代が生涯学習をはじめるきっかけづくりとして「子育て世代が参加しやすい講座など各世代のニーズに応じた講座を開催」「講座やイベントの情報発信の強化」が求められている

生涯学習をはじめるきっかけづくりに力をいれる点として、「子育て世代が参加しやすい講座など各世代の状況（ニーズ）に応じた講座を開催する」が34.8%と最も多く、次いで「講座やイベントの情報発信を強化する」が32.1%、「地域で学習活動している団体の情報を提供する」が26.7%となっています。（図表 17）

【図表 17 生涯学習をはじめるきっかけづくりに力を入れる点】



資料：北九州市

一般市民では「子育て世代が参加しやすい講座など各世代の状況（ニーズ）に応じた講座を開催する」（43.0%）が最も多くなっています。一方、センター利用者では「講座やイベントの情報発信を強化する」（31.7%）が最も多くなっています。（図表 17 - 1）

【図表 17-1 生涯学習をはじめるきっかけづくりに力を入れる点（一般市民、センター利用者）】

		全体	子育て世代が参加しやすい講座など各世代の状況（ニーズ）に応じた講座を開催する	文化祭など「見る・体験する」行事やイベント等を開催する	市民の意見を取り入れる	講座やイベントの企画に	地域で学習活動している団体の情報を提供する	講座やイベントの情報発信を強化する	カルチャーセンター、スポーツクラブなどの民間施設の情報を収集・提供する	学習や活動に関する相談窓口を設置する	施設や設備を改修し、利用しやすいようにする	学校の教室などを積極的に貸し出す	その他	特にない	わからない	無回答
																(%)
全体		2,081人	34.8	23.1	20.3	26.7	32.1	18.8	9.7	24.3	13.1	2.2	1.6	1.0	8.3	
内訳	一般市民	741人	43.0	23.5	18.5	27.4	32.8	26.9	13.5	24.0	10.8	3.0	3.8	2.2	5.1	
	センター利用者	1,340人	30.3	22.9	21.3	26.3	31.7	14.3	7.6	24.4	14.3	1.8	0.4	0.4	10.1	

資料：北九州市